



グザヴィエ・ドウ・メストレ  
Xavier de Maistre Harp Recital ハープ・リサイタル

2023年4月27日(木) 19時開演 紀尾井ホール

7:00 p.m. Thursday, April 27, 2023 at Kioi Hall

主催：ジャパン・アーツ 協力：ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル

## ペシェッティ：ソナタ ハ短調

Giovanni Pescetti: Sonata in C minor

- |                     |                              |
|---------------------|------------------------------|
| 第1楽章：アレグロ・ヴィヴォロソ    | 1st Mov.: Allegro vigoroso   |
| 第2楽章：アンダンテ・エスプレッシヴォ | 2nd Mov.: Andante espressivo |
| 第3楽章：プレスト           | 3rd Mov.: Presto             |

## デュセック：ピアノ・ソナタ ハ短調 Op. 35-3

Jan Ladislav Dussek: Sonata in C minor Op. 35-3

- |                 |                            |
|-----------------|----------------------------|
| 第1楽章：アレグロ・モデラート | 1st Mov.: Allegro moderato |
| 第2楽章：アンダンティーノ   | 2nd Mov.: Andantino        |
| 第3楽章：ロンド、アレグロ   | 3rd Mov.: Rodo - Allegro   |

## タレガ：アルハンブラ宮殿の思い出

Francisco Tárrega: Recuerdos de la Alhambra

## デ・ファリヤ(グランジャーニ編)：歌劇「はかなき人生」より スペイン舞曲

Manuel de Falla: Spanish Dance from "La Vida Breve" (arr. by Marcel Grandjany)

## フォーレ：ハーブのための即興曲 第6番 変ニ長調 Op. 86

Gabriel Fauré: Impromptu, in D-flat Major Op. 86

\* \* \*

## グラナドス：詩的なワルツ集(序奏と7曲)

Enrique Granados: Valses Poéticos

- |                              |   |
|------------------------------|---|
| 序奏(ヴィヴァーチェ・モルト)              | Introducción. Vivace molto                  |
| 1. メロディアスなワルツ(ブラシダメンテ)       | 1. Melodico                                 |
| 2. 情熱的なワルツ(高貴なワルツのテンポで)      | 2. Tempo de Vals noble                      |
| 3. ワルツ・レント(ゆっくりしたワルツのテンポで)   | 3. Tempo de Vals lento                      |
| 4. ユーモラスなワルツ(アレグロ・ウモリスティコ)   | 4. Allegro humoristico                      |
| 5. ワルツ・プリランテ(アレグレット・エレガント)   | 5. Allegretto (elegante)                    |
| 6. センチメンタルなワルツ(クアジ・アド・リビトゥム) | 6. Quasi ad libitum (sentimental)           |
| 7. 蝶のワルツ(ヴィーヴォ)              | 7. Vivo                                     |
| 素晴らしいワルツ(プレスト)               | Coda. Presto - Andante - tempo dil 1.º Vals |

## ドビュッシー：2つのアラベスクより アラベスク 第1番 ホ長調

Claude Debussy: Arabesque No.1 in E Major

## ルニエ：伝説

Henriette Renié: Légende: d'après Les elfes de Leconte de Lisle

## グザヴィエ・ドゥ・メストレ 2023年日本公演スケジュール

4月27日(木)	東京	紀尾井ホール	主催：ジャパン・アーツ
4月29日(土祝)	東京	東京芸術劇場	主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団 ★
4月30日(日)	東京	東京芸術劇場	主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団 ★

★ 読売日本交響楽団との共演(指揮：尾高忠明)

## グザヴィエ・ドゥ・メストレ(ハーブ)

Xavier de Maistre, Harp



©Nikolaj Lund

グザヴィエ・ドゥ・メストレは現代を代表するハーピストであり、深い創造性にあふれた音楽家である。卓越したハーブ奏者として、作曲家に新作を委嘱するなど、ハーブのレパートリーを拡大してきた。また、重要な器楽のレパートリーの編曲も手掛けている。

このような音楽的ビジョンに導かれ、彼はサー・アンドレ・プレヴィン、サー・サイモン・ラトル、リッカルド・ムーティ、ダニエレ・ガッティ、フィリップ・ジョルダンなど、名指揮者たちとの共演を果たした。またパリ管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、バーミンガム市交響楽団、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー管弦楽団、シカゴ交響楽団、ロサンゼルス・フィルハーモニック、そしてNHK交響楽団などから招かれ、共演している。

オーケストラ・コンサートと並行して、室内楽にも情熱を注いでおり、定期的に独創的なリサイタルを企画している。テノールのローランド・ヴィラソンとは、新たなコラボレーションを開始し、ドイツ・グラモフォンで録音している。昨シーズンは、フラメンコとカスターネットの伝説的な存在であるルセロ・テナと共演し、ソニー・クラシカルからアルバムをリリースした。ディアナ・ダムラウ、モイツァ・エルトマン、アラベラ・シュタインバッハ、ダニエル・ミュラー＝ショット等とも定期的に共演している。

2020年夏には、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン音楽祭にレジデント・アーティストとして参加。これまでにソリストとして、ラインガウやザルツブルク音楽祭など、多数の有名音楽祭に招かれ、ゲスト出演している。ソリストとして、ザルツブルク音楽祭、ウィーン音楽週間、ヴェルヴィエ音楽祭、ニューヨークのモーストリー・モーツァルトなどの音楽祭に出演。2022年シーズンは、マチュラル指揮フランス国立管弦楽団と共に、ドイツ、オーストリアツアーに参加し、グリエールのハーブ協奏曲を共演。同作品はシュトゥツマン指揮ケルン放響とのCDもリリースされている。

2008年より、ソニー・クラシカルの専属アーティストとして活動。2021年10月にリリースした前作『クリスマス・ハーブ』には、有名なクリスマス・キャロルのバラフレーズやファンタジーの他、チャイコフスキーとシューベルトの美しい楽曲が収録されている。

トゥーロンに生まれ、地元の音楽院でヴァシリア・ブリアーノにハーブを学んだ後、パリでカトリーヌ・ミシェル及びジャクリーヌ・ボロに師事してその技術を完璧に磨き上げた。さらにパリのシパンスポやロンドン・スクール・オブ・エコノミクスでも学ぶ。1998年、権威あるUSA国際ハーブ・コンクール(ブルーミントン)で優勝と同時に2つの演奏賞を受賞し、同年、フランス人として初めてウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の一員となった。2001年よりハンブルク音楽大学にて教鞭を執っている。

柿沼 唯 (作曲家)  
Yui Kakinuma

### G.B.ペシェッティ(1704-1766)：ソナタ ハ短調

ジョヴァンニ・バティスタ・ペシェッティは、ベネツィアでオペラ作曲家として頭角を現したのち、ロンドンのコヴェントガーデン王立劇場の監督として活躍した。晩年にはヴェネツィアのサンマルコ大聖堂のオルガニストを務めたすぐれた鍵盤奏者でもあった。多くのチェンバロ・ソナタを残しており、ここで演奏される〈ソナタ ハ短調〉もその中の一曲。アメリカのハープ奏者C.サルツェードがハープ用に編曲した。第1楽章アレグロ・ヴィヴォローソ、第2楽章アンダンテ・エスプレッシーヴォ、第3楽章プレストの3楽章構成。

### J.L.デュセック(1760-1812)：ピアノ・ソナタ ハ短調 Op. 35-3

ヨハン・ラディスラウス・デュセック(ヤン・ラディスラフ・ドゥシーク)はチェコ出身の作曲家で、イギリス・ピアノ楽派の基礎を築いたことで知られるが、夫人がハープ奏者だったことなどから、ハープのための作品も数多く残している。その生涯は波瀾万丈のエピソードに彩られており、まさに「ボヘミアン」を地で行く音楽家だった。名ハープ奏者として知られたジャン＝バティスト・クルムホルツの妻と駆け落ちし、失意の夫を自殺に追い込んだという逸話もある。〈ソナタ ハ短調〉は、デュセックのハープ曲の代表作として知られる一曲。第1楽章アレグロ・モデラート、第2楽章アンダンティーノ、第3楽章ロンド、アレグロの3楽章からなる。

### F.タレガ(1852-1909)：アルハンブラ宮殿の思い出

ヴィルトゥオーゾ・ギタリストとして活躍し「ギターサラサーテ」とも呼ばれたフランシスコ・タレガは、多くのギター曲を残した。ショパンに心酔していたといわれるその作風は、詩的情緒とメロディの魅力にあふれ、高度なギターの技巧が彩りを添える。タレガの代表作としてのみならず、スペイン・ギター音楽の代名詞ともいえる人気曲〈アルハンブラ宮殿の思い出〉は、グラナダにあるアルハンブラ宮殿を訪れた印象をもとに作曲された。メランコリックなメロディを奏するトレモロ奏法が、アルハンブラの風光を印象づける。

### M.デ・ファリャ(1876-1946) グランジャンニー編：

#### 歌劇「はかなき人生」より スペイン舞曲

スペイン民族主義楽派を代表する作曲家マヌエル・デ・ファリャは、バレエ曲〈恋は魔術師〉などの管弦楽の大家として知られているが、この曲は初期の歌劇「はかなき人生」の中の一曲。婚礼の祝宴の場面で奏される音楽で、リズムカルな伴奏によってフラメンコの情熱的な踊りが繰り広げられる。クライスラー編曲のヴァイオリン曲としてしばしば取り上げられる曲だが、今回はアメリカで活躍したフランス人ハープ奏者、マルセル・グランジャンニーの編曲による。

### G.フォーレ(1845-1924)：

#### ハープのための即興曲 第6番 変ニ長調 Op. 86

フランス近代を代表する作曲家ガブリエル・フォーレは、100曲を超える歌曲や数々のピアノ曲、室内楽など様々なジャンルに作品を残したが、どの曲にも純粋な内面性がたたえられ、そのどこまでも優雅でデリケートな音楽は聴き手を魅了してやまない。彼が作曲した即興曲は6曲あり、そのうち5曲はピアノ用に書かれたもの、そして残る一曲がハープのために書かれたこの名品である。1904年にフォーレが院長を務めていたパリ音楽院のハープ科教授アッセルマンのクラスの課題曲として作曲され、アッセルマンに献呈された。変ニ長調と変口短調二つの主題をハープの華麗な技巧で彩る、ハープ奏者のレパートリーには欠かせない一曲となっている。

### E.グラナドス(1867-1916)：詩的なワルツ集(序奏と7曲)

アルベニスと並ぶ近代スペイン民族主義楽派の代表的作曲家エンリケ・グラナドスは、自らが優れたピアニストであったことから、ピアノのための作品を数多く残している。〈詩的なワルツ集〉はグラナドスの初期のピアノ曲(1887年作曲)で、若き作曲家のロマンティストぶりが発揮された魅力的な一曲。様々な性格の短いワルツを連ねた「ワルツ組曲」の形により、序奏と7つのワルツおよび終曲で構成される。

序奏(ヴァイヴァーチェ・モルト)、1.メロディアスなワルツ(プラシダメンテ)、2.情熱的なワルツ(高貴なワルツのテンポで)、3.ワルツ・レント(ゆっくりしたワルツのテンポで)、4.ユーモラスなワルツ(アレグロ・ウモリスティコ)、5.ワルツ・ブリランテ(アレグレット・エレガント)、6.センチメンタルなワルツ(クアジ・アド・リビトゥム)、7.蝶のワルツ(ヴィーヴォ)、終曲・素晴らしいワルツ(プレスト)

### C.ドビュッシー(1862-1918)：

#### 2つのアラベスクより アラベスク 第1番 ホ長調

フランス印象主義音楽の扉を開いたドビュッシーの初期のピアノ曲〈2つのアラベスク〉には、マスネやグリーグなどの影響が色濃いのが、シューマンの例にならった〈アラベスク〉(「アラビア風」の意)というタイトル自体、そのエキゾチズムは、後年の東洋への傾倒を予告するものといえよう。ここで演奏される〈第1番〉は、さわやかなアルペジオに甘美なメロディーが織り込まれる一曲で、広く親しまれている。

### H.ルニエ(1875-1956)：伝説

アンリエット・ルニエは、20世紀初頭のハープ音楽に多大な影響を与えたフランスの女流ハープ奏者。マルセル・グランジャンニーを育てた名教師でもあった。ハープならではの優美で叙情的な美質と高度な技巧に彩られた名作〈伝説〉は、ルニエ28歳の年に作曲された出世作。ルコント・ド・リールの『妖精たち Les Elfes』という詩に基づいて作曲されている。「タイムとマージョラムの冠をかぶり、陽気なエルフ(妖精)たちが野原で踊っている」。